

議事録

名称	令和8年度 玉川地区学校適正配置地元代表協議会（第4回）
開催日時	令和8年5月28日（木）19時00分～21時00分
開催場所	玉川支所 2階 大ホール
出席者	【委員】 会長 外21名（教育長、副教育長を含む） ※2名欠席（九和小学校PTA、九和保育所保護者代表） ※2名オンライン出席（日の出保育所保護者代表、九和保育所保護者代表）
	【その他】 玉川支所長
	【事務局】 今治市教育委員会、玉川地域教育課
傍聴者	—
議題	1 委員交代のお知らせ 2 小学校PTA総会での説明について 3 望ましい学校のあり方について 4 意見交換

7 議事録（要点筆記） 文中（※）は補足した内容

事務局	（当日配布資料の事前確認） ・資料7 資料の修正に伴う差し替え ・参考資料1 検討項目及び協議スケジュール・意見書(H25年) ・参考資料2 小中一貫レイアウト案 ・小学校適正配置に関するPTA保護者アンケート結果報告
会長	本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。 ただいまから第4回玉川地区学校適正配置地元代表協議会を開催する。 本日、傍聴希望はありません。 出席者が定足数に達しているか事務局に報告を求める。
事務局	本日、欠席者2名で定足数に達しているため、会議が成立している。 なお、オンライン出席者が2名いる。
会長	本日の会議録署名人を指名する。
事務局	署名人を、日の出保育所保護者代表 野中ちさと委員、玉川地区人権擁護委員 渡部守委員にお願いする。 （両名 了承）

会長	令和 8 年度の委員交代、変更について事務局からの説明を求める。 (事務局 委員の交代を紹介)
事務局	それでは、次第 3 小学校PTA総会での説明について、令和 7 年度の振り返りを含めてこれまでの経緯を、鴨部小学校PTA総会で教育委員会から説明したというので、報告を求める。 (事務局 資料 1 ～ 5 を説明)
会長	この内容について、ご意見・ご質問等はないか。 (委員 意見なし)
会議	それでは、次第 4 議事に入る。(1) 望ましい学校のあり方について、第 3 回でご意見のあった点について、事務局から説明を求める。 (事務局 小学校適正配置に関するPTA保護者アンケート結果報告について説明)
会長	この内容について、ご意見・ご質問等ないか。 (委員 意見なし)
事務局	両小学校に共通する教育活動の特色について説明する。 地域の自然・文化・人材を活用し、子どもたちが地域に誇りを持ち、地域とともに成長し貢献できる力を育てる教育を行っている。 蒼社川での稚アユ放流などの自然体験、地域の施設訪問や町探検を通じた地域理解が共通している。また、地域の方の講話や指導を受けた際には、学びをお礼状や発表で地域に返す流れも共通する。福祉施設や高齢者との交流も大切にしている。 鴨部小学校は、読書ボランティアとの交流や保育所との連携、防災士や自治会と協力した防災学習など、人とのつながりを中心とした活動や、総合学習の発表会などで地域と学びを共有する機会が多い。 九和小学校は、万葉の森での自然観察やブルーベリー狩り、楢原山での植樹など、季節ごとに地域の自然資源をいかした学習が充実している。

事務局	つづいて、資料について説明をする。 (事務局 資料 7、8、参考資料 1・意見書(H25年)、参考資料 2 について説明)
会長	この内容について、ご意見・ご質問等ないか。 これまでの内容を踏まえて、意見交換に入る。事務局からの説明を踏まえ、新しい学校の場所、あり方を考えるにあたり、皆さんの立場から課題・問題と思われることについてご発言いただきたい。
A 委員	小学校の統合についてのみを議論すべきか、玉川にどのような学校を残したいかを議論すべきかが漠然としている。 教育委員会は玉川町に学校を残す考えであり、魅力化・特色化によって町外から児童を呼び込みたいという話であった。 今は、魅力化・特色化の議論、統合場所の議論、小中一貫化の是非といった論点の優先順位とテンポが難しく、整理してほしい。
会長	玉川中学校は将来的に統廃合の対象になると危惧している。 今は、玉川町に学校を残すため、魅力化・特色化を図る良い機会だと思っている。子どもが統合校に通う当事者である小学校PTAや保育所保護者には、学校の魅力づくりについてアイデアを出していただきたい。 会長ではなく一委員の意見として、小学校の低学年を中心に越智今治森林組合やFC今治、しまなみ木のおもちゃ美術館などと連携した「木育」、玉川町にゆかりある企業の協力によるICT教育、地元金融機関による金融学習、徳島県にある神山まると高専のような起業家精神に触れる学習、今治市のドローン特区をいかしたドローンクラブ、ドローン活用による防災教育など、特別支援学級を含め、玉川町で殻を破った魅力ある教育環境を提供できていると思っている。 鴨部小学校PTA、何か意見はないか。
B 委員	保護者アンケートの結果には保護者の思いがよく出ており、今ここで統合場所を決めるのは難しい。今日の資料をもとに、もう少し考えたい。統合場所の決め方については、多数決なのか、全員の合意を得るのか、委員は悩まれていると思うが、今は考える時間を欲しい。
C 委員	両小学校とも地元を支えられ、歴史的な背景があり、アンケートの結果のみで統合について決定したくない。アンケートは一つの参考意見として考えていただきたい。今回アンケートに回答した世帯のうち、高学

	年の世帯は統合校の当事者ではないし、中学校施設で統合する場合は中学校の保護者や生徒の意見も大事である。
会長	他の方、ご意見ないか。
D 委員	中学校施設に統合した場合、運動会の駐車場は足りるのか。また、低学年用のプールはどうするのか。
事務局	プールについて、一般的には、中学校プールを半分のレーンで小学生用・中学生用に分け、小学生が使う部分はすのこ等で底上げする。低学年用のプールは別に整備が必要である。中学生が今のプールの広さのまま使いたい場合、小学生は九和小学校のプールを使用する可能性もある。 運動会の駐車場は中学校周辺だけでは不足するため、九和小学校のグラウンドを解放するなどの方法が考えられる。
E 委員	今年度から協議会に参加したので、議論の現状を確認したい。 統合の是非については、地理の問題などを抜いて考えると、子どもの教育が向上するのであれば賛成で意見が一致するはずだと思うのだが、話を聞いていると、そういう意見の一致が見えない。 前回協議までに、子どものための教育という観点において十分に議論されているか。
会長	第3回協議会では、協議不十分とされ、PTAを対象に説明会をした上でアンケートを取り直すこととし、本日に至っている。
F 委員	E委員は、アンケートを取るに至った議論の経緯を知りたいのではないか。
E 委員	保護者や自治会の一部の集まりだけで議論を行い、意見が広く共有されていないのではないかと心配している。そして、協議済の内容を知りたい。
F 委員	B委員が、考える時間が欲しいと言うのも、議論が共有されていないからではないか？
事務局	教育委員会から、両小学校の保護者全体に向けて、協議の進捗状況について説明会を行っている。保護者アンケートの結果は、両小学校PTAも他の委員と同じく本協議会で初めて知った状況である。

事務局	地域の方には、支所だよりの折り込みで協議の進捗状況を周知している。市ホームページでは、より詳細を公開している。
E 委員	アンケート結果では統合に賛成の割合が多かったが、この結果が、教育を中心に十分な議論がされた結果であるのか気になったので、先ほどの質問をした次第だ。現状はわかった。
C 委員	鴨部小学校の保護者は約50世帯おり、その全員で会議は行っていない。PTA役員内では統合について頻繁に議論している。 E委員の言う通り、教育の観点で統合に異論はないが、小学生の場合は、学習だけに限らず通学なども教育の一つであり考慮の対象になる。広範囲な保護者全員の意見を取りまとめるためにアンケートを行ったのであって、アンケート結果は、直接統合を決定するものではない。 B委員が考える時間を欲しいと言ったのは、議論の項目や結論までの経路が多く、悩んでいるという話である。 小学校や保育所の保護者の意見を全て我々で拾うことは難しい。
E 委員	第一に、教育の観点で統合が最善であるのか。第二に、統合場所を決め、最後に特色化・魅力化の議論をすべきだ。その結論が、玉川町のまちづくりになり、必要な人材を呼ぶにつながると思う。そのため、第一ステップの合意ができているかを確認したかった。
C 委員	両小学校の歴史や特色を尊重している。ただし、現在は児童数が少なく、統合は致し方ないと思っている。他の保護者の実際の思いまで集約することは難しい。
E 委員	統合の是非について全国的にメリットデメリットが出されているが、それに限らず、玉川町として子どもの教育のために何をふさわしいとするのが問題だ。アンケートに書いてあるような統合のメリットが多くの人に理解されたとき、統合への合意ができるのではないかと思う。
A 委員	ご意見を聞き、教育の観点に立ち返って考える必要があると思った。小学校と中学校の統合は、教育的に優先されることなのだろうか。 将来、中学校が廃校になる可能性があるとの話も出たが、玉川町に学校を残すために小中一貫化するのがよいのか、教育にとってそれでいいのか、皆さんはどう考えているか聞きたい。 そして、小中一貫校における先生にとってのメリットデメリットの資

	料と、将来、中学校が過小規模化したときに中学校単独で運営が可能かどうかについて、資料が欲しい。先生たちのモチベーションが教育にも影響すると思う。小中一貫化の是非が決まれば、議論がスムーズに進むと思う。
事務局	合意形成までの経路は複数あり、どの道筋がよいか悩むところではある。事務局からは、小学校同士の統合と中学校を含めた統合という2つの案を提示しているが、教育と場所の観点のどちらで議論しても、最終地点は一緒であるかと思う。他の統合検討地域では、場所を先に決めてから、魅力化・特色化の議論を進めている。どの手法が正解ということはない。
A委員	4地区の中で、小中一貫校の話が出ている地域は、玉川地区の他には無いと聞いているがどうか。
事務局	校舎の規模の問題から、小中一貫化ができない地域もあり、最も実現可能性が高いのは玉川地区である。
A委員	他地区では、過去の中学校統合の経緯から、中学校がない地域に小学校を設置するといった場所の観点での議論ができたと思うが、玉川地区では、場所を先に決める手法は適していないのではないかと思う。場所よりも、小中一貫化をするかしないか、それで教育ができるのかどうかを先に知りたい。
G委員	前回協議までは、小中一貫教育の話は出ていなかったはずだ。 統合する場合の場所や距離の話の中で、地域の意見により、町の機能が九和側に寄っているから、鴨部側に学校を置いたらどうかと話が出たが、いずれにしても場所の観点で、教育内容は話していないはずだ。 場所の候補は九和小・鴨部小・玉川中の3か所で、距離的に中学校にするのなら、そこでどんな教育をするか考えればよい。九和小や鴨部小でも小中連携はできるが、あえて玉川中が候補に出てきたのは、距離的な問題と地域社会とのつながりが理由だろう。議論はその段階である。
H委員	今回、小中一貫や小中一体になったとしたら、将来、中学校統合にどのような影響があるのか。
事務局	将来的な問題で回答が難しいところもある。部活動などの理由で、他学区の中学校に進学する生徒もいると聞いている。一方で、市内全体で

教育長

少子化は進んでおり、15年先になると統合対象地区も広がる可能性がある。そのとき、玉川中学校が小中一貫校であっても、統合しないと言い切れるか今の時点ではわからない。松山市立日浦小中学校のように、山間部であっても他地域から児童生徒を呼んでいる事例があるので、今後検討が必要である。

協議会の立ち上げ時に、この自然環境、人情、風土のある玉川において、義務教育を担う小中学校を将来に残すような学校統合をしたいと申し上げた。小中が一緒になることで、将来に玉川中学校が存続する可能性は高まると私は考える。小学生が中学生の姿を日常的に見たり、中学校の先生の指導を受けたりすることで、中学校への憧れを持つ機会を期待できる。

玉川地区では、中学校教員による小学生の専科指導など、既に小中連携の積み重ねがあり、小中一貫化することでさらに推進されるだろう。一方で、小中を同一敷地内にしたとして、小中一貫校と連携校のどちらにするかは、場所が定まらなければ進めにくい面もある。

保護者アンケートで中学校での統合を希望された方の中には、場所と併せて小中一貫や連携など教育環境を考慮された方もいると思われる。場所から議論が始まる場合と、場所と教育内容が同時に議論される場合があり、判断は難しいが、各々の思いを出し合って検討していきたい。

一長一短があるため、最善を見出すのは容易ではないが、より良い方向を目指すとともに、どのような付加価値をつけられるかについて、地域や教育委員会、学校が一体となって考えていく必要があると思われる。

H委員

小学生の中学校への憧れを促し進学させることで、中学校が存続する可能性が高まるという話だが、実際には、少人数で部活動も少ないために他校へ子どもを通わせる保護者も多く、難しいところと受け取った。

この先、玉川中学校が他の中学校と統合することになれば、いちど小中一体となった状態から、中学校が分離する可能性もあると考えてよいのか。

教育長

将来、そういう可能性もあるが、その中で、小規模特認校制度など、できるだけ存続させる方法を地域や学校と共に考える必要がある。

前提として、中学校存続は小中一貫化の目的の全てではない。小中連携により活気が起きることや、地域の方々が子どもたちの9年間の成長を見守ることができるなど、様々な良い点がある。

E委員

今の学校の維持や、将来の規模縮小への対策ではなくて、これからの

	玉川町をどう盛り上げていくかという趣旨でないと、意見がまとまらないのではないかと思います。 小中一貫校とするか、小学校と中学校の施設を別にして連携することの、どちらが付加価値をつけて教育を盛り上げやすいか、皆さんの意見を聞きたい。会長が言ったようなことをするとしても、どちらがよいか。
会長	予算が付きやすいのはどちらか。
事務局	何をするか、実現可能性があるか、予算額はいくらか、という観点が考慮されるので、小中一貫校と連携校のどちらがと言うのは難しい。 判断材料として、事務局から統合場所ごとにどんな取り組みをするかの案を示すことはできる。次回、そのような協議にはいかがか。
副会長	統合場所の最終結論は、本協議会で決定すると思うが、多数決で決めるのか、どのように決めるのか。
事務局	手法に決まりはないが、協議会の委員だけで決定したということにはならないようにしていきたい。
副会長	スケジュールでは、第6回で意見書素案の検討承認と書いているが、予定通りに意見がまとまることを想定しているか。まとまらなければ、第7回を開催する想定もあるか。
事務局	今回お示ししたスケジュールは、仮に統合を1年早める場合を想定し、第6回で決定することとしている。議論がまとまらない・より深めたい場合は、第7回以降の開催がある。ただし、決定はなるべく早い方が、統合準備会の期間が増える。
I 委員	陸地部の学校統合は旧市町村域を越えないという方針だが、今の状況の玉川町で人口が増えると思えず、統合後、数年度に見直しをしても、状況は同じだと思う。別名や延喜、阿方あたりでは、昔は農地であった土地に家が多く建っている。一方、玉川町は市街化調整区域のため、家を建てるのが制限されており、住人が増えるはずがないので、行政は昭和の制度の継続を見直し、家を建てて住める町にしたい。
事務局	貴重なご意見については、担当課につなげさせていただく。
A 委員	もし、玉川中学校が廃校になって、玉川の児童が西中と南中に分かれ

教育長

て進学すると想定した場合、子どもは幸せだろうかと思案している。玉川中で部活動ができないから西中や南中に進学するという話をよく聞くが、少人数教育として玉川中を残すべきなのか、生徒数が多く様々な部活動ができる学校の方が教育としてよいのか悩んでいるので、意見を聞かせて欲しい。

よりよい教育環境を考える際には、知識・理解という学習環境だけでなく、ふるさとキャリア教育のような視点もある。地域や家庭、学校の先生など、地域から発達段階に応じて愛情を受けて育った子どもは、成長後、地域や家庭に愛情を返していこうという意識を持つようになると考える。地元に残るには、その受け皿となる産業などが必要だが、まずは愛情を受けて育ち、感謝を返す人に成長することが大事であると思う。

規模が大きい学校に行くことと、地元で見守られて育つことのどちらが良いかについて、玉川地区の判断として、少人数ながら地域で子どもを育てていこうと考えるなら、一丸となることが大事である。現に関わっている子どもを大事に育てる視点を持つべきであると思う。

J 委員

私は鈍川地区に住んでおり、自身の子どもが5年生のときに、鈍川小学校が九和小学校へ統合する経験をした。統合して良かった面もあるが、学校がなくなること地域で過疎化につながった。

一貫教育や連携教育は、付近の地域で、他に事例があるのか。

教育長

今治市内では、関前村の岡村小学校と関前中学校が、正式には小中一貫校ではないものの同一校舎で教育を受けている。

愛媛県の正式な小中一貫校は鬼北町の日吉小中学校で、地域ぐるみで特色ある教育を行っている。

同じ敷地内でも、小中一貫校ではなく小中連携校にすることもでき、それぞれのメリットデメリットがある。

K 委員

関前は島だが、玉川は近くに別の小中学校があるので、状況が違う。私自身も玉川で育ったが、子どもの頃の記憶といえば、授業などより友達との活動や部活の思い出の方がよく残っており、人数が少ないとそういう経験ができないのではないかと思います。

児童生徒数は将来にわたり減っていくため、小中一貫校であっても、小学校と中学校を分離して統合しなおす可能性があると思うので、小学校同士で統合した方がよいのではないかと思います。

小中一貫化せず中学校の場所で統合することは賛成だが、小学生の体格に合わせ、校舎等の改修は必要であると思う。

教育長	関前村では、島に学校を残す必要があるため、移住者を呼び、子どもを学校に通わせる努力を行っている。島しょ部と陸地部で思いや状況は違うが、ご意見を言っていただくことが参考になると思う。
会長	時間もかなり経ったので、今日は議論を終わらせていただく。 今日出た話の中で方向性を見出し、事務局から案を出していただくことで審議を深めていきたい。 今回は資料を早めに送っていただき、目を通した上で十分な審議を続けていきたい。 4地区の中で、玉川地区が、一番時間がかかるだろう。みなさんと審議を重ねて方向性を出していかなければならないと思う。
F 委員	愛媛県内にある小中一貫校に、現地の意見を聞くことはできないか。
教育長	他市町の状況を聞いて次回にお話しさせていただきたい。
事務局	今回の開催日程について調整させていただきたい。 (日程調整)
事務局	今回は7月15日水曜日午後7時からとさせていただきます。
会長	本日は長時間にわたってありがとうございました。 これをもちまして、第4回玉川地区学校適正配置地元代表協議会を閉会する。

以上、会議の次第を記し、その相違ないことを証するため署名する。

令和8年 6 月 22日

野中 委員 野中 ひとと

渡部 委員 渡部 亨